

あわのくに
コウノトリ

HANDBOOK

鳴門にやってきたこの大きな鳥は、どんな鳥？



川と文化

洪水がおこる時期の前に収穫できる藍栽培が盛んになり、藍商人の繁栄が阿波踊り、人形浄瑠璃文化の発展や、藍染めに欠かせない藍がめの大谷焼を根付かせた

大谷焼



藍染



人形浄瑠璃



豊富な水量を誇り、
毎年のように洪水がおきる吉野川——
徳島の東西を貫くこの川は、栄養豊かな土を運び、
特色ある食や文化、産業の発展を支えてきました。
その川にいま、「コウノトリ」と「ナベヅル」という
新たなシンボルが登場。
瑞鳥ともいわれるこの大きな鳥たちは、
どんな鳥なのでしょう。

01

あわのくに
コウノトリ

吉野川の水がはぐくむ文化

レンコン



なると金時



川と文化

海水と淡水が交じり合う河口域では、すじ青のりの養殖や、砂地を活かした鳴門金時を栽培

工業



すじ青のり



川と文化

豊富な水が、原材料や洗浄・冷却水となり、徳島の経済を支える産業が集積

阿波おどり



なぜ、コウノトリはやってきた？

レンコン田の秘密

コウノトリが舞い降りたのは、吉野川の下流の鳴門市大津・大麻地区や松茂町など。旧吉野川からの潤沢な水と、きめの細かい土壌を活かしたレンコン栽培が盛んな地域です。レンコン田は農薬の使用量が少なく、さらに梅雨や台風で水があふれやすい地域のため、水路とレンコン田がつながり、生きものたちが往来して産卵します。そんな水と生きものの循環が、コウノトリの食べものとなる生きものが沢山育つ環境となった秘密です。

「田んぼの鳥」のイメージが強いコウノトリですが、収穫前に水を落とす水田と違い、一年を通して浅く水が張られているレンコン田は、大食漢なコウノトリにとって恰好の居場所になりました。



2017年から毎年ヒナ誕生

その裏には地域の努力が

2015年に2羽のコウノトリが飛来し繁殖の兆しを見せると、すぐに県は巣のある周辺を「コウノトリ鳥獣保護区」に指定しました。見物客によるストレスがないよう、鳴門市は観察ポイントや駐車場を整備し、見回りや看板を立てるなど観察マナーの徹底にも努めています。レンコン田ではもともと少量だった農薬や化学肥料をさらに減らした「特別栽培」の取組が進められ、コウノトリの食べものとなる生きものがくらしやすい環境になっています。

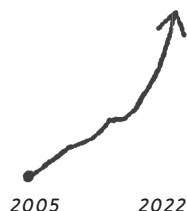
さらに、コウノトリのための「ビオトープ」づくりは、繁殖が続く大麻地区、吉野川の洪水対策の事業地や、島田島など市内各所の耕作放棄地に広がっています。

このようなコウノトリを歓迎する地域に惹きつけられるように、今では渡り鳥のナベヅルという希少な鳥も鳴門で冬を越すために立ち寄るようになりました。

鳴門にやってきた希少な鳥たち

コウノトリ

絶滅から復活



巣をつくる木の伐採や、農薬による生きものの減少等から、1971年に一度は野生では絶滅。人工増殖を経て、2005年に兵庫県豊岡市で放鳥が始まり、野生でも繁殖し、徐々に増えている。

出会ったらずっと一緒

生涯つがいは変わらない。3歳で繁殖できるようになるが、相性の良い相手としかペアにならず、独身のコウノトリは各地へ旅をしながら居場所や相手を探す。1日に300km以上移動することもあり、日本と韓国・中国の間の往来も確認されている。

頂点ゆえの敵



湿地にいる生きものの生態系の頂点のため、最大の敵は同じコウノトリ。繁殖に適した場所が限られていると、別のつがいの巣を襲うこともある。



江戸時代までは普通に見られたコウノトリとナベヅルは、
狩猟による乱獲や生息に適した環境の消失のため数が減り、絶滅が危惧されるようになりました。

ナベヅル

過密状態の冬

渡り鳥のナベヅルは、世界の全個体数の9割以上が保護区のある鹿児島県出水市に集中して越冬。ウイルスの蔓延が私たちにとって危機であるように、密集した状態で感染症等が発生してしまうと、絶滅にもつながりかねない。

春夏は繁殖地へ



春から夏はつがいごとに縄張りを持ち、ロシアや中国東北部の湿地で産卵し子育て。10月下旬頃から幼鳥を連れて越冬地の日本へ渡り、家族や小さな群れで行動する。2～3月頃にはまた繁殖地へ移動。

秋は子連れ旅

1～2か月程かけて2,000km以上もの距離を移動。渡りの途中で命を落とすことも少なくない。秋にはその年に生まれた幼鳥が一緒のため、春よりも長い時間をかけて渡ってくる。



こんな特徴があります

コ コウノトリ

ナ ナベヅル

160 cm

100~
110 cm

コ

ナ

90~
100 cm

コ

翼の幅
200~220cm

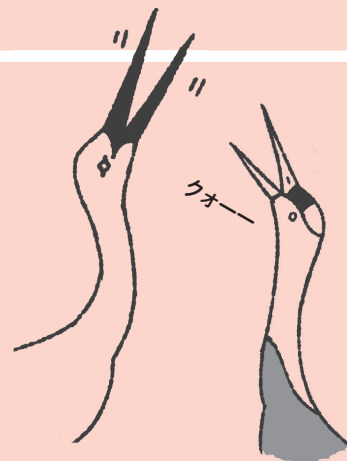
重さ 4-5kg

大きさ

ナ

翼の幅
160~180cm

重さ 3-4kg



鳴き方

コ 鳴きません。口ばしをカタカタさせるクラッタリングでコミュニケーションをとる。家族以外に対しては威嚇の場合が多い

ナ クォークォーと大きな声で家族とのコミュニケーションや威嚇の時に鳴く。渡りを終えて到着したばかりの秋頃は、とくに神経質



コ

肉食。カエルやドジョウ、フナ等水の中の生きもの。一日で500g程食べる

食べもの

ナ

雑食。越冬中は主に稲刈り後の落穂や二番穂、地下茎等。一日で200g程食べる



間違いやすい

サギ類も、コウノトリと同じく水の中の生きものが好物のため、同じ場所で見られる。大きさはコウノトリやナベヅルより小ぶり。飛んでいる時にサギ類は首をS字に曲げ、コウノトリやナベヅルはまっすぐに伸ばすので見分けやすい。



サギ類



コウノトリ・ナベヅル



繁殖準備をするために、
枝などの巣材を運ぶ姿が
見られます。

卵を産むと、ヒナが巣立つ
まで子育てする姿が見られ
ます。卵を温めている間は
必ず1羽は巣の中にいます。



会える度 **高** 4-6月

会える度
中
1-3月

コウノトリ に 会える？

ナベヅルも



10月下旬～3月まで日本で越冬。
コウノトリと田んぼにいる姿や、
日の出・日没前後に、上空を飛
ぶ姿を見られることも

本州から吉野川流域に多く飛来する季節。繁
殖場所を探す独身の鳥や、飛べるようになった
幼鳥が日により2～20羽程観察できます。

会える度は、p8に掲載の巣周辺での場合。
時期によっては巣周辺より、大津や大麻東
部のレンコン田に多くいる時もあります

会える度
低
7-9月

ハスの花も



7月頃レンコン田はハスの
花が満開に。観賞は午前
7～9時頃がおすすめ

巣立ちをしたヒナが、自分で食べものを
とる訓練を始め、やがて巣に戻らなくな
ります。レンコン田は葉が茂るため、水
路やビオトープでよく見かけます。

会える度 **低** 10-12月



どこで会えるかな

観察は大麻地区のコウノトリの巣の周辺がおすすめ。
野生の生きものなので、必ず会えるわけではありませんが
出会えたらラッキーという気持ちで、田園を散策してみてください。



観察時の注意は？

コウノトリは一度繁殖に成功すると同じ巣を利用します。地図にある場所は観察しやすいのですが、一方で、2～4月の産卵前から子育て初期は親鳥が神経質になり、邪魔されてしまうと繁殖や子育てに失敗してしまいます。巣周辺の観察・撮影自粛のお願い看板より先には、立ち入らないでください。**首をあげてこちらを見ていたら警戒しています。近づきすぎのサインです。**

準備することは？

コウノトリは大きいので肉眼でも見つけることができますが、観察するなら**8～10倍の双眼鏡**、撮影なら**20～30倍ズームのデジカメ**がおすすめです。池谷駅か板東南ふれあいセンター以外、📷 観察スポットの近くには、**トイレがない**のでご注意ください。

コウノトリが怪我をしていたら？

近づかないでください。弱っているように見えても、鋭い口ばしで急所をつこうとします。安易に近づくと、興奮して体力の消耗にもつながります。早急に保護できれば自然に戻せる可能性も高まります。弱っているコウノトリを発見したら、**役場または、徳島県グリーン社会推進課088-621-2263**に連絡してください。死亡している場合は、病原体や細菌等を持っている可能性があるので、触れないようにしてください。

アクセスは？

巣の周辺はレンコン田で、農家の方の職場です。軽トラックが1台通るのがぎりぎりの**狭い道が多い**です。観察は**駐車場に車を停めて**、道をふさいだり、農地へ入らないようにしてください。夏場は草丈が高くなり、道に迷ったり、脱輪などのアクシデントが起きています。

もっと詳しい情報は

コウノトリの生態
足環の種類など



コウノトリの郷公園

ツルの生態
飛来数の情報



クレインパーク出水

鳴門のコウノトリ
今の状況は？



とくしまコウノトリ基金

徳島県内の
広域観光情報



阿波ナビ

応援してください！

コウノトリがくらすには、レンコン栽培など地域の農業や、大きなこの鳥を受け入れてくれる地域の方の支えが欠かせません。持続的に共生できるよう、商品の購入などでぜひ応援してください。

食べて応援！

バラエティ豊かなメニュー。
ホクホク、シャキシャキの
レンコンを堪能しよう

食彩 小鮎



蓮根と海老のはさみ揚げ

板野郡松茂町中喜来字宮前一番越1
☎ 088-699-7033 ㊿日曜・祝日

朝昼ときどき晩ごはん Door! ドアー



レンコンの鶏ミルフィーユ

徳島市寺島本町東1-20 鉄屋ビル2-3F
☎ 088-676-2313 ㊿日曜、祝日不定休

酒肴彩 はんなり



蓮根まんじゅう

鳴門市撫養町小桑島前浜272-1
☎ 088-685-0710 ㊿水曜・第4日曜日

大鳥居苑



レンコン天うどんセット

鳴門市大麻町板東西山田33-4
☎ 088-689-3523 ㊿水曜

和風ダイニング 連



蓮根饅頭

板野郡藍住町東中富龍池傍示13-3
☎ 088-692-0977 ㊿月曜

れんまるカフェ



れんまるまんぶく御膳

鳴門市撫養町齊田字浜端北120
☎ 088-660-5723 ㊿火曜

さかなばたけ



レンコンと豚肉とチーズのフライ

鳴門市撫養町小桑島前浜265-1
☎ 088-683-0550 ㊿日曜

買って応援！

新鮮なレンコンや加工品はもちろん
コウノトリの生息環境づくりへの寄付にもなる
お酒や大谷焼きも



特産品や寄付になる商品のお買いものは、こちらで！



道の駅 くるくるなると

鳴門の食材を使った
元気になる食事も提供
鳴門市大津町備前島338-1
☎ 088-685-9696



JA 大津松茂 農産物直売所 えがお

地域の農家さんが丹精込めた
農産物や加工品などを販売
鳴門市大津町備前島字横丁ノ越303-1
☎ 088-602-7100



本家松浦酒造場 ナルトタイの店

巣の近くで特別栽培した
お米の日本酒も
鳴門市大麻町池谷柳の本19
☎ 0120-866-140



鳴門地方卸売市場

新鮮な魚や野菜が
少量でも買える卸売市場
鳴門市里浦町粟津西開38-1
☎ 088-685-3680

宿泊すると
コウノトリへ
200円寄付になる



泊まって応援！

SDGs コウノトリ応援宿泊プランのご利用で、1泊一人につき 200円(お客様から100円、ホテルから100円)が、「とくしまコウノトリ基金」に寄付できます。

アオアラ ナルト リゾート

瀬戸内海国立公園内(大毛島)
オーシャンフロントのリゾートホテル
徳島県鳴門市鳴門町土佐泊浦字大毛16-45
☎ 088-687-2580



右の表は、コウノトリやツルと共生するために、地域でのルールをまとめています。イベントやツアーを企画・実施する際に参照してください。

徳島県内での、コウノトリの繁殖やナベヅルの飛来を受け、官民を問わず多くの団体や個人が連携のもとに、よりよい生息環境を守り育て、特色ある地域をつくる生態系ネットワークの取組を進めています。



コウノトリ・ツル類を観察する時には、適度な距離を保ち、コウノトリ・ツル類の行動に悪影響を与えないようにします。

- 1
 - コウノトリ、ツル類から150m以上の距離を保つ
 - コウノトリの巣から原則400m以上の距離を保つ
 - 写真撮影時には、フラッシュを使用しない
- 2 ツアー実施にあたって、実施するツアーの性質や特徴に応じた定員を設定します。
- 3 ツアー実施にあたって、史跡や建物に訪れる場合は、それらの価値を事前に伝え、慎重な行動を促します。
- 4 ツアー中のゴミの発生を最小限にします。また、発生したゴミを適正に処分します。
- 5 ツアー実施にあたって、ツアー中に利用可能なトイレの位置及び数等を事前に確認するとともに、ツアー参加者にトイレの利用を促します。
- 6 ツアー実施にあたって、住居周辺や農地を利用する場合には、地域住民や農業者、土地所有者へ事前に目的や実施日時を説明し、了承を得ます。また、ツアー参加者に無断で住居や農地へ立ち入らないように呼びかけます。
- 7 ツアー実施にあたって、自動車・自転車を利用する場合に、運転マナーを守ります。また、決められた場所に駐車します。
- 8 ツアー実施にあたって、農作業に支障の出ることがないようにします。
- 9 写真・動画を撮影する場合は、地域住民や農業者、他の来訪者の妨げにならないようにします。また、人や民家は許可を得て撮影します。